

令和7年度 学校評価総括表

五條市立西吉野農業高等学校No.1

教育目標	高い志をもち、広く社会や地域に貢献する自立した人材の育成					総合評価	
運営方針	「不撓不屈」の校訓のもと、「土に学び土で育つ」をスローガンに定め、実学を重視した教育活動を展開する。「できないこと」が「できること」に変わる、生徒が日々成長する学校、「行きたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくりを実現する。 ・主体的に学び、変化する社会に対応できる確かな学力を培う。 ・他人を思いやる豊かな心を育て、人権を尊重し、社会に貢献する精神を育む。 ・健康、安全についての知識を深め、健康保持に努めるたくましい心身を養う。						
令和6年度の成果と課題	本年度重点目標					B	
地元農家の協力を得て、実習を核にした実学教育の推進、校外における学習を含めた教育課程を編成した。 全国から生徒を募集しているが、募集定員を満たしていない。学校の魅力づくりや情報発信をさらに強化する。 農業の専門高校としての農業施設や設備の整備・充実が急務である。 オンラインを利用した授業のあり方についてさらなるスキルアップが必要である。	基礎学力の定着と個に応じた進路指導を実現する。～授業の改善・実習の充実とキャリア形成～						
	安心で安全な学校づくりに努める。～開発的生徒指導と豊かな心を育てる人権教育～						
	充実した学校生活を実感できる教育活動を実施する。～学校行事の充実と部活動の活性化～						
	保護者や地域との連携を密にする。～情報発信、学校評価、地元協力農家との連携～						
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
総務	家庭や地域との関係機関との連携に向けて、具体的な取組を行う。	学校運営協議会を開催し、地域や育友会、地元協力農家との連携を密にして、広く協力と支援を求める。【目標 年2回】	B	B	育友会総会には36%、体育大会には約12%の保護者に遠方より来校いただいた。学校運営協議会や長寿ふれあい健康祭を開催し、地域との連携・交流を図ることができた。	学校運営協議会や学校行事を通して、地域や育友会、関係機関との連携をさらに深める。	現在はSNSでの情報収集が主流であり、ブログによる発信だけでは波及効果が限定的です。西吉野農業高校の魅力をより戦略的に、かつ全国区へ届けるための[攻め]の発信スタイルへのアップデートについて検討をお願いします。
	地域社会の人的・物的な資源を積極的に教育活動の中で活用する。	こども園や高齢者との交流の機会を設ける。また、地域の農家や社会人講師の講義等を授業に取り入れる。【目標 交流年4回、社会人講師5回以上】	B		こども園交流を4回、小学校交流を1回行った。また社会人講師は10回招いた。	幼小、高齢者等、地域交流活動を広げる。社会人講師を積極的に活用し、生徒の興味関心の向上に繋げる。	
	広報活動を充実させ、本校教育活動への周知と理解を促す。	ホームページ、ブログ等の定期的な更新を通して、本校の特色や魅力の発信に努める。【目標 ブログ更新週3回以上、アクセス数平均月6,000件以上】	A		ブログ更新週4回以上、アクセス数は月平均7500件を超え、定期的な更新がアクセス数の増加につながった。	ブログ発信を組織化し、安定した更新を図る。Instagram等の新たな広報活動を検討する。	
学習指導	各科目において基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。	基本的事項と達成目標を明確にし、学習方法についても単元・教材ごとに確認する。専門科目では、TTを導入し、きめ細かい指導を行う。【目標 単元テスト各教科学期に2回以上】	A	B	基礎的・基本的事項と達成目標を年度当初に確認した。ほとんどの生徒が具体的な目標を把握し、学習方法について理解できていた。	基礎学力の底上げに向けた指導方法の工夫、協働体制の確立を引き続き図る。	引き続き、校内学習指導研究週間を実施し、学習指導力の向上に努めるとともに、基礎学力の底上げを図ってください。ICTを効果的に活用し、持続可能な業務をお願いします。
	教員のICT活用指導力を向上する。	教員のICT活用指導力の調査について、活用80%以上にする。	B		ICT活用状況は徐々にアップしている。ただし、教員のスキル不足と負担増、端末環境の格差等、今後、運用面での総合的なサポートが必要である。	日々の業務と並行しながら新しい技術の習得は難しい。教員向け研修の充実と負担軽減策を検討しなければならない。	
	学習指導力の向上を図る。	学習指導週間を設定し、1人3回以上の授業見学を行う。多くの授業を参観することで新学習指導要領の評価の研究を進める。	B		10日間の校内学習指導研究週間を実施できた。指導力向上、授業の質的改善につながった。	指導と評価の一体化については一定理解が進んでいるが、引き続き教務研修会等を企画し、指導力向上を図る。	

五條市立西吉野農業高等学校No.2

評価項目		具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
生徒指導	規範意識の向上	高校生として当たり前のモラルを身につけさせ基本的ルール(挨拶、マナー、身だしなみ、言葉遣いなど)の指導を徹底する。【目標 出席率：毎月90%以上 特別指導10名以内】	A	B	日頃より生徒の様子を細かく観察し、些細なことでも報告連絡相談を欠かさなかったことで生徒の意識も向上し、特別指導も10名以下となり、出席率も94.4%と目標を達成できた。	生徒や保護者から信頼される生徒指導を展開するべく、全職員が一貫性のある生徒指導を実施できるように、研修会等を設定する。	愛情を持って生徒に寄り添う一方で、集団生活における規律については、従来通りの「厳しさ」を持って指導し、生徒の自立を促してください。寮生活の安全確保は最優先事項です。教育委員会との連携をさらに深め、専門的な知見を取り入れながら、防災・防犯教育の推進をお願いします。
	いじめの防止	県いじめ防止対策基本方針に基づき、早期発見に努める。認知した場合は組織全体で対応し、各関係機関や保護者との連携を図る。【目標 年2回のアンケート実施】	B		アンケートの実施は年1回で目標には届かなかったが、アンケート結果から気になる生徒には担任より面談を行い、家庭連絡や寮との連携を図るなど早期発見に努めた。	アンケートの実施をスムーズに行えるよう、ICT機器の活用方法の模索や、情報共有がスムーズに行えるシステムの構築を行う。	
	安全教育	命の大切さを深く認識させ、災害、交通ルール、不審者対応など危機管理の意識を高め、防災避難訓練の実施を行う。【目標 避難訓練参加率100%】	B		防災避難訓練の参加率は96%であった。消防署との連携をとり、実施要項を提出した。不審者対応講習は2回実施できた。	自然災害の対応等について、各関係機関に講師派遣依頼を行うなど、連携を図る。	
進路指導	計画的な進路指導	HRを通して、進路実現に向けた準備を計画的に行う。【目標 キャリアパスポート作成(全学年)100%】	B	B	自己理解や進路研究などをテーマにHRを4回実施した。また、考査の振り返りとして各学年でキャリアパスポートを作成した(100%)が、その活用については担任任せとなった。	作成したキャリアパスポートは、面談などで共に振り返る時間を設け、次回への目標設定として活用する。	進路実現に向けた取り組みを引き続きお願いします。また、就職してから、上司からの厳しい指導で離職する生徒もいます。早期の離職を避ける意味で、日頃から厳しく温かい指導をお願いします。
	自己分析の徹底	自分の性格・個性・興味・関心・価値観について知る【目標 職業適性検査受検(2年生)100%、自己分析についてのHR(全学年)100%】	B		2年生全員に職業適性検査を実施した。また、各学年で自己理解に関するHRを実施した(100%)。	自己分析を毎年繰り返すことで、自身の興味関心を追求し、適性や能力に応じた進路選択に役立てる。	
	適切な勤労観の醸成	実習や就労での体験・交流を通して、勤労観や職業観の形成を図る。【目標 記録簿の記入(2, 3, 4年生)100%】	B		農家実習や就労後に記録簿を提出させ、実習内容の振り返りを行った(100%)。また、県主催のインターンシップや合同企業説明会等の周知を図った。	農業関連以外を志望する生徒に、志望職種でのインターンシップや説明会への参加を促す。	
人権教育	人権感覚を育てる。	HR活動をとおり、人権に関する理解を深め、自尊感情を高めるとともに、他人を思いやる豊かな心を養う。【目標 人権HRの実施、年間5回以上】	B	B	人権HRは5回実施したが、4年間を通した目標設定が不十分だった。	高人教での研修で得た知見等をいかし、4年間の体系的な内容を模索する。	生徒の発達に応じた人権ホームルームの展開と、スクールカウンセラーの活用を継続し、人権感覚の醸成や生徒支援を引き続きお願いします。
	安心できる環境づくりに努める。	他分掌と連携し、生徒が安心できる環境づくりに努める。【目標 「学校は安心できる環境づくりに取り組んでいますか。」というアンケート項目への回答で、「そう思う」80%以上】	B		関連する項目において、「そう思う」では、保護者生徒ともに80%を下回るものもあるが、「どちらかといえばそう思う」を含むと90%以上となった。	目標達成にむけ、生徒指導部と連携しながら生徒理解に努め、指導方針を模索する。	
	生徒を支援する体制を整える。	生徒観察を行い、7月までに特別な支援を要する生徒を絞り込み、三者面談等で支援についての意向を確認する。【目標 本人・保護者の意向を確認し、特別支援計画を作成する】	A		支援計画の作成を希望する者はいなかったが、特別支援教育巡回アドバイザーと連携し、進学先や就職先への支援計画の引継ぎ体制を整えた。	日常的な生徒の実態把握、情報収集を行うとともに、心と生活のアンケート結果等をもとにSCやSSWとの連携を図る。	
保健体育	体育行事への参加推進	体育行事の内容や時期などの精査を行い、また、運営などに生徒を積極的に参加させることにより、参加意欲の推進を図る。【出席率95%以上】	A	B	体育行事の出席率は96%となった。今年度より体育大会において、学年対抗で行った。生徒の参加意欲の促進を行うことができた。	体育大会に限らず、他の体育行事の内容の充実を図るために、教員間での情報共有を積極的に行うよう努める。	行事については生徒一人ひとりに役割分担して、全生徒で行事を盛り上げてください。また、保護者等と連携を密にして、生徒の健康管理をお願いします。
	食育指導の徹底	欠食アンケートの実施や体力テストのアンケートをもとに、食習慣の実態を把握し、関係教科や三者面談での家庭連絡などで、食育の推進を図る。【欠食率15%以下】	B		朝食の欠食率は18%であった。朝食の必要性を生徒自身が理解することができる機会を増やしていく必要がある。	知識として朝食の必要性を知ってもらうために、保健体育以外の教科との連携やHRを通して、情報発信の増加に努める。	
	健康管理指導の徹底	家庭等と協力し、生徒の健康状態の把握や健康管理指導を行うために、健康診断結果通知や受診勧告などを積極的に行う。【受診率50%以上】	B		受診率は33%であり、昨年度と同様であった。受診率は低下しなかったが、目標の50%には届かなかった。	保健だよりや三者懇談を通して、疾病をスクリーニングする役割をもつ学校健康診断への理解を深め、二次検査の必要性を伝えていく必要がある。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	基本的生活習慣の確立	四年間の学校生活を送るための土作りを目指し、正しい生活リズムを身に付け、欠席や遅刻のないように指導する。【出席率90%以上】	B	B	出席率は81.4%であり、目標に満たなかったが、年度当初と比較して徐々に改善する傾向にあった。	社会での責任について考えさせるとともに、出席することの大切さについて、より積極的に指導する。	基本的生活習慣の確立に向けた指導を引き続きお願いするとともに、社会人としての礼儀についてもさらに指導をお願いします。これからも学校が楽しいと思えるような取組を継続してください。
	礼儀、マナーの習得	挨拶や服装、言葉遣い、時間厳守など生きていくために必要な力を身に付けることができるよう指導を徹底していく。【目標 年間で入室カードの記入を一人平均5回以内に収める】	B		年間での記入回数の平均は6.8回であり、その内容としてはトイレによる入室が多かった。	来年度から始まる校外実習や卒業後の進路を見据えて、時間厳守の意識と自己管理の重要性について指導する。	
第2学年	自己管理能力の向上	自ら体調管理ができるよう指導を行うことで、円滑な学校生活を送らせる。【目標 保健室利用を一人平均3回以内に収める】	A	B	保健室利用は一人平均3回以内であり、去年度より大幅な減少となった。	来年度も引き続き、日々の体調管理やセルフケアについて指導を行う。また、今後の社会生活と体調管理の関連性も併せて指導を行う。	引き続き体調面や身の回りの細かいな管理を自主的にできるように指導してください。また、農業の魅力を伝えるホームルームの展開をお願いします。
	農家実習への適応	各農家のルールの遵守させ基本的な礼儀作法を身に付けさせるとともに、実習を通して、継続する力を養わせる。【目標 農家実習の出席率95%以上】	B		農家実習の出席率は100%であった。しかし、基本的な礼儀作法について、日常生活の中では懸念する部分が見られた。	今後の社会生活に向けて、礼儀作法の重要性を理解できるよう指導を行う。	
第3学年	規範意識の向上	社会人として必要な礼儀作法や規範意識を身に付けさせ、また、場をわきまえ、他者を思いやる言動ができるようにする。【目標:毎日HRで服装、挨拶礼の作法を指導する】	B	B	継続的な指導によりマナーへの意識が向上した。さらに、身の回りの些細な変化にも気づき、主体的にコミュニケーションを図る姿が見られるようになった。	来年度最高学年になる上で、後輩の模範となれるよう、社会人としての自覚や自信が身に付くよう指導する。	進路実現に向けた取組をお願いします。社会人としてのナマについても指導をお願いします。
	進路決定に向けた準備	進路について調べ、自己分析をして方向性を見出すことで、来年度の進路決定がスムーズに運ぶよう準備させる。【目標 進路相談を月1回以上行う】	A		企業リサーチを始める生徒や、大学・専門学校のオープンキャンパスに参加する生徒が8割以上となり、クラス全体が進路に向けて前向きになった。	今後は収集した情報をもとに志望理由書や自己PRを考えさせ、進路実現に繋げたい。まだ迷いのある生徒に対しては継続して目標設定を促す。	
第4学年	進路の決定	進路実現に向け、生徒の希望に寄り添いながら進路相談、進路活動等を積極的かつきめ細やかに進行。【目標 月3回以上】	B	B	進路に関する個人面談は月2回しかできなかった。生徒一人一人が先の見通しを立てて概ね希望通りの進路実現ができた。	登校が週3回であるため、3年生のうちから進路の方向性について考えさせる必要がある。	進学対応も含めたきめ細やかな進路指導を行い、全員の進路実現に向けた取組をお願いします。
	生活習慣の確立	就職・進学後を見据え、基本的生活習慣の確立や挨拶、マナー、身だしなみなどについての指導を徹底して行う。【目標 出席率:毎月97%以上】	B		出席率は94%と目標を達成することはできなかったが、就労体験活動の出席率は98%であり、就職に向けた生活習慣を確立することができた。	就労体験活動の疲れでの欠席を無くすために、体調管理について指導を行う。	
農業科	安全・安心な農場作り	増設した温室やカキ圃場を有効かつ安全に活用し、安心して実践的・探求的な学習活動を行える農場作りに努める。【目標 実習での事故0件】	A	A	増設したカキ圃場は、地域の方々との交流も交えて、有効かつ安全に活用することができた。大きな事故やケガ、熱中症等もなく、運営できた。	実習によって得られる結果をデータとして活用する方法を工夫し、より効果的な学習活動を模索する。	施設等の維持管理について生徒が実習等で学べる仕組みの整理をお願いします。農業クラブ活動については引き続き全生徒が参加できる工夫をお願いします。また、次年度も全国での活躍を期待しています。
	農家実習での深い学び	農家実習後、学んだ知識や技術を毎回記録簿に整理させるとともに、思考力、表現力を育成する。【目標 記録簿提出100%】	A		実習記録簿の提出率は100%であり、記述の内容も全般的に向上している。	自身の適性や性格をより深く学ぶため、ふり返りの方法を工夫する。	
	地域交流の活性化	地域交流を基にした研究活動により、農業に関する課題を合理的かつ創造的に解決する力を育む。【目標 地域交流活動年間5回以上】	B		目標を大きく上回る地域交流、研究活動を行うことができた。生徒の積極的な様子は見られたが、集団行動での継続性には課題があった。	集団活動で、課題に取り組むことの難しさと意義を理解させる方法を工夫する。	